

# 大豆技術情報(第4号)

平成30年10月  
富山農林振興センター  
富山市農業協同組合

**まもなく大豆の収穫時期となります。「黄葉期」や「落葉期」を基に「成熟期」を予想し、早めに収穫・乾燥作業の準備を行い、適期内に収穫を終えましょう。**

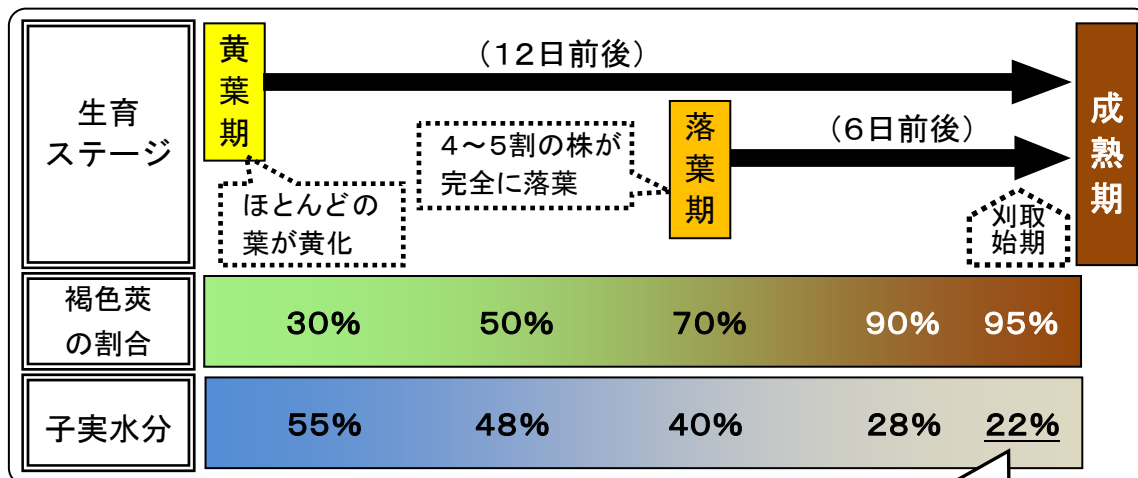
## 刈取始期の判定

### ～褐色莢割合から生育ステージを確認～

- ・ほ場毎に成熟期の目安をつけ、作業計画を立てましょう。
- ・莢の熟色を確認し、**ほとんどの莢が褐色になった頃**(子実水分22%以下)から刈り始めましょう。

表 刈取始期の目安 (エンレイ)

刈取始期
10月7日頃～



※ 登熟状況は、播種時期や生育量により差が大きくなるので、必ずほ場ごとに生育ステージを確認しましょう

しわ粒軽減のため22%から刈り始め

## 注意!

刈り遅れると、立毛中の裂莢等による**収穫ロス**が増加し、**しわ粒**や**腐敗粒**の発生要因になります。茎の色みが若干残っていても、莢色を優先して収穫してください。

## 収穫作業

- ・汚損粒防止のため、**収穫前にイヌホオズキ等の大きな雑草や青立株を必ず抜取る**とともに、**土をかき込まないよう刈取り高さは地際から10cm程度**に調整しましょう。
- ・収穫は、**午前10時～午後4時を目安とし、莢が乾いていることを確認**してから行いましょう。
- ・**作業速度は0.5m/秒(1.8km/h)程度**とし、大豆の生育量が大きい場合は更に速度を落とすなど、コンバインのつまりを防ぎましょう。
- ・黒根腐病が発生したほ場は、病害の蔓延を防ぐため、収穫を最後にまわしたり、別刈りにしましょう。また、収穫作業後は、コンバイン等の洗浄を徹底しましょう。



イヌホオズキ

## 乾燥・調製

- ・急激な乾燥は、しわ粒や皮切れ粒等の発生要因となります。機械乾燥する場合は、送風温度を「**気温+5℃以内**」とし、子実水分14%程度に仕上げましょう。

## 次年度対策

### ① 土づくり

- ・近年の収量低迷やしわ粒の発生などは、地力の低下も大きな要因と考えられます。**堆肥の施用や緑肥作物(ヘアリーベッチ等)の作付け・鍍込み**により、収量や品質の向上を図りましょう。

※ヘアリーベッチの播種(3~4kg/10a)は、10月上旬までに行うとともに、しっかりと**排水溝を設置**しましょう。

### ② 排水対策

- ・次年度の作付予定地には、年内に**額縁排水溝**を設置しましょう。

